

## 5. 自治会、団地社協、民生委員の一体化

孤独死の課題という「深く、広く、地域住民相互の取り組み」を展開するに際して、その地区をささえている自治会、団地社協、民生委員の一体感でもって対応することが不可欠となります。

この三団体の役員をそれぞれ兼任することにより、共通の理解を深め、課題についてチャレンジしたほか、他の事業活動の活性化を図ることにもなりました。このことは地域住民の信用と安心を高めることにもなっています。

## 6. 孤独死対策は地域福祉の究極の課題

一般的に「死」については、僧侶とか葬儀屋さんの領域であり、個人の問題として捉えています。が、孤独死の課題に取り組むことにより「孤独死の課題を地域福祉の究極の課題」として捉えました。いわば死は生のカガミであるという視点に立つということの重要性を改めて再確認できました。

## 7. あいさつ推進標語を普及

孤独死やその予備軍をなくするには、つきつめて学んだことは、「あいさつ」という生活習慣を身につけることを改めて知りました。なんとといっても、人生の幸せづくりは「あいさつに始まってあいさつで終わる」ことを再認識できました。やはり「あいさつは孤独死ゼロの第一歩」を実感しました。「あいさつ」「感謝」「ささえあい」は福祉の心でまちづくりに通じることも理解できました。

## 8. マスコミ関係者の理解と協力

常盤平団地が地域ぐるみで孤独死の課題に次々と挑み、孤独死に適切に対応。その都度、新聞、テレビ、ラジオから各種の雑誌、会報に至るまで、この課題が取り上げられました。まさに私たちへの“応援団”の役割を果たしていただきました。全国にこの取り組みが広がったものも、あるいは厚労省に私たちの声が届いて、同省がこの“トビウ”を開く契機となったのも「報道のおかげ」です。いまでは単行本の分野にまで広がりを示すことになっています。

## 9. 講演、事例報告も相次ぐ

3年前から、孤独死の取り組みについて、講演、事例報告の要請が相次ぎ、まったく想定外のことでした。その要請は札幌から北九州まで、各地から寄せられています。この要請は厚労省の「勉強会」「推进会議」からも寄せられ、可能な限り、要請に応えてきました。

これからもさらに「お招き」を受けることになるでしょう。

## 10. 教育の分野からも注目

孤独死の課題は、いまでは教育の分野からも注目されています。文科省が今年、聖徳大学に対して、「孤独死について調査研究」を委託しました。江戸川大学福祉専門学校、淑徳大学、日本女子大学で「授業の一環」として「中沢講演」を実施しました。

社会福祉科等の学生の間でこの孤独死の課題が関心を呼びようになっています。

ここでも「死は生のカガミ」を証明しているといえるでしょう。

以上、大きな成果として10項目についてまとめました。いずれにせよ「地域がまとめて努力」した成果です。それを「地域力」というなら、地域力を強めることにより孤独死の課題も含め、地域福祉の全般的な推進と自治会活動及びコミュニティの再生についても有効に実りあるものにするができることを実感しました。

「孤独死ゼロ作戦」が全国的に広がりをもって注目されている中、阪急コミュニケーションズから孤独死の単行本『ひとり団地の一室で…』が発刊されました。この本の書評が日本経済新聞と「赤旗」に掲載されました。

このほか話の泉社から単行本『孤独死ゼロ作戦 中沢講話集』、平凡社から『孤独死の単行本』が発行されることになっています。このように単行本の分野にも孤独死の課題が広がりを見せています。この11月号『中央公論』にフリーライター佐々木とく子さんによる「孤独死の大量発生が止まらない」をテーマに8ページにわたり掲載されました。

# 今後の取り組み課題

## 1. 「孤独死ゼロ作戦」（4つの課題）の推進

4つの課題のうち、孤独死を発生させる社会的な背景を踏まえ、孤独死の実態把握に努め、「8つの対策」のそれぞれの項目ごとの課題について積極的に取り組みます。

そして、「死は生のカガミ」という視点に立って「いきいき人生の啓発」の課題を地域ぐるみで推進するように、全力で取り組みます。

## 2. 「10項目の成果」をさらに発展

「10項目」の成果について、それぞれの継続と発展に努めます。

## 3. 地域包括支援センターの事業と連携強化

介護予防に欠かせないのが地域包括支援センターによる事業です。地域内の在宅介護支援センターと連携を深め推進します。

## 4. 「みんなで考え、みんなで歩む」視点を重視

「ひとりはお互いのために、みんなはひとりのために」という地域における「ささえあい」「助けあい」の関係を深め、「思いやり福祉の心でまちづくり」に努めます。その第一歩はまず「あいさつの推進」から。これを地域福祉の原点と捉え、積極的に奨励します。

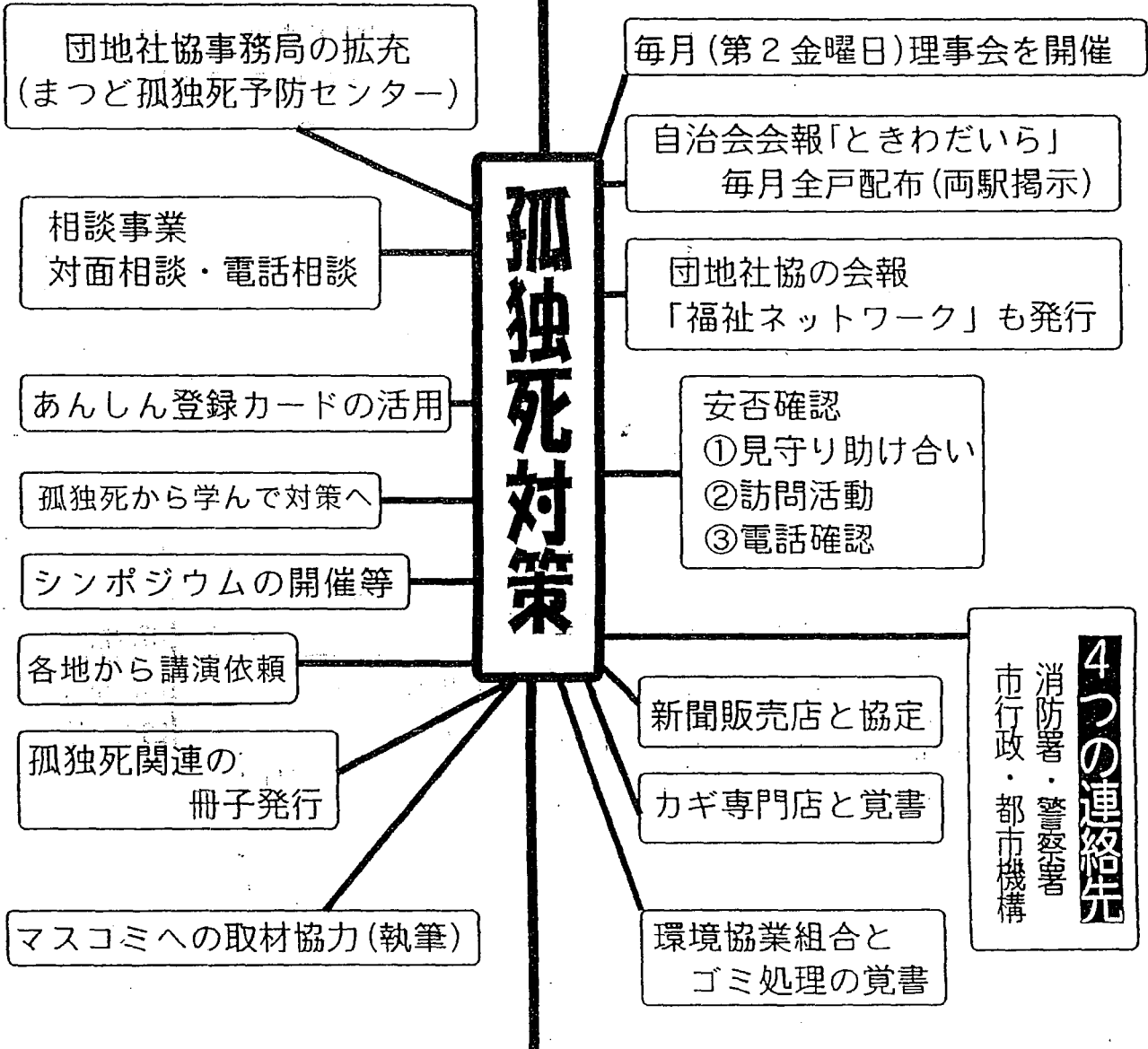
## 5. 行政と市社協、団地社協の協働

県の「地域福祉支援計画」、松戸市の「地域福祉計画」松戸市社会福祉協議会の「地域福祉活動計画」（第三次）を踏まえ、協働の関係を重視します。

(次ページから関係資料)

# 孤独死対策の関連図

団地社協・民生委員・団地自治会一体感で対応



**孤独死ゼロ作戦 (4つの課題)** (2ページ参照)

- (1)孤独死を発生させる社会的状況を見極める (4項目)
- (2)孤独死の実態把握 (3項目)
- (3)8つの対策 (8項目)
- (4)いきいき人生への啓蒙、啓発 (12項目)

## 助け合い見守り活動のポイント

### 1. 団地のベランダは家庭のカガミ

- ①洗濯物の有無で判断
- ②物干しにより、子どもがいる家庭か、二人（夫婦・親子）世帯か、ひとり暮らし世帯か判断できる
- ③長い間、洗濯物を干していないと要注意
- ④「要注意」のベランダに「訪問」・「電話」などで安否確認を

### 2. 郵便受けが「不在宅」を証明

- ①郵便受けにチラシや新聞がたまっているポストは長期不在か、寝たきりであるか、要注意
- ②ポストが常にアイているところは心配なし
- ③チラシがたまっているポスト宅に声をかけてみる。または、最寄りの民生・児童委員に連絡

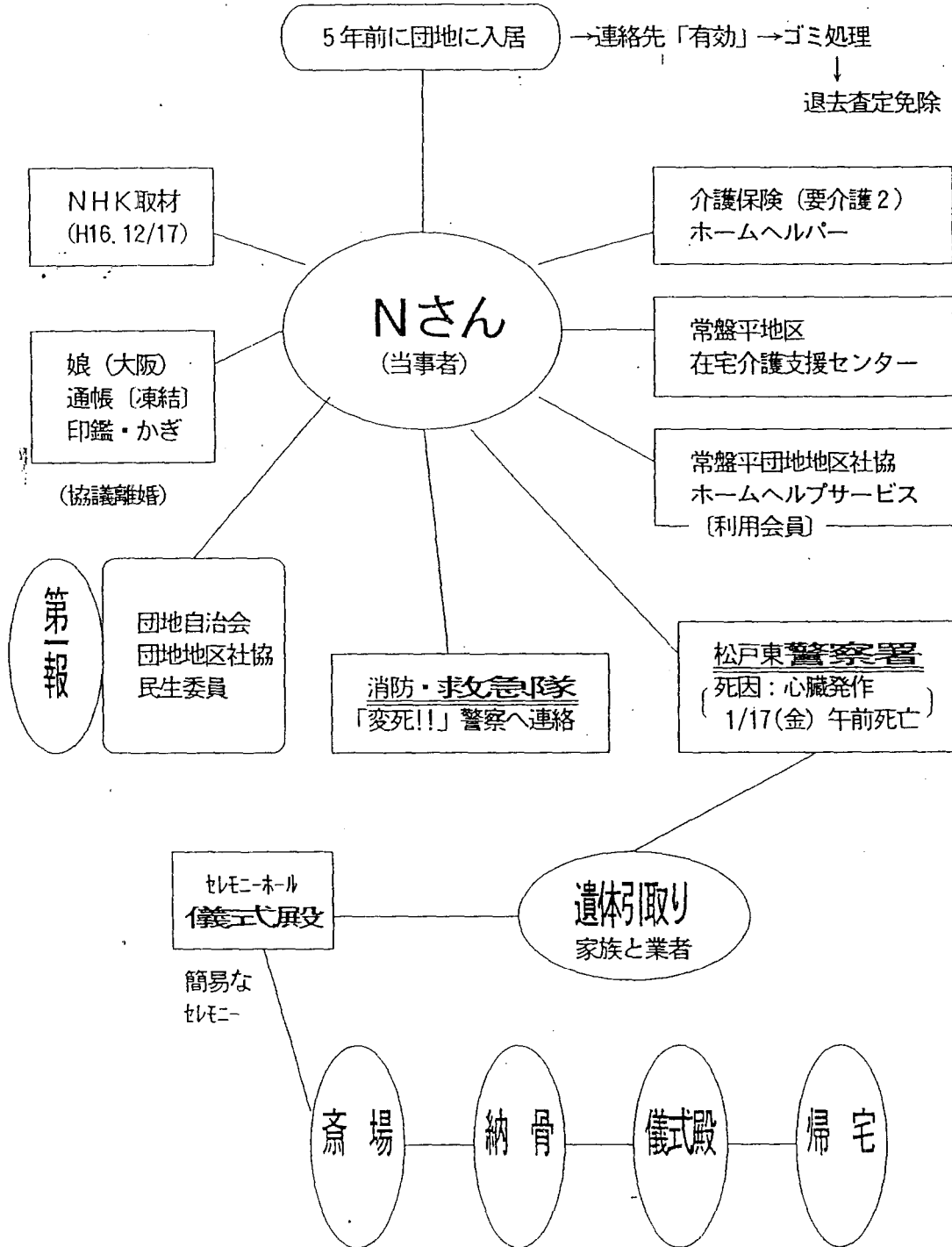
### 3. 「変だと思ったら」「異変に気づいたら」団地社協または「孤独死110番」へ連絡

### 4. 見守りに限らず「あいさつ」「声かけ」を実行

### 5. 市からの要請宅、ひとり暮らし宅、困っている家庭に対して、「見守り」「訪問」「電話」をかけるなどして安否を確認

# 早期発見孤独死関連図

《Nさん・男性・一人暮らし・12月17日(金)に孤独死・その午前に死亡》



# 団地社協



## 事務局ニュース

No.112

1998年11月13日

常盤平団地地区社会福祉協議会  
松戸市常盤平3-30(市民センター内)  
FAX・047(387)1561

### ☆団地社協理事会を開催

団地社協は11月13日(火)午後2時から、市民センター、特別会議室で、総括理事会を開催。団地自治会の水嶋副会長と市社協の中崎友之主宰も同席。中崎主宰によって「あいさつ唱和」から始めました。

### ☆事業・研修の経過報告

10月17日(水) 船橋市自治連合会 講演

10月18日(木) 「孤独死の課題と自治会の役割」講師・中沢卓実氏

10月18日(木) 19年度常盤平団地地区・市政懇談会

10月18日(木) いきいきサロン 世話人会議

10月20日(土) いきいき大学

10月21日(日) 白井市自治連合会 講演

「孤独死の課題と自治会の役割」講師・中沢卓実氏

10月22日(月) 熊本日日新聞 掲載

「高齢者の孤独死を防げ！」社会部次長・本田清悟氏取材

10月24日(水) ふれあいサロン

10月30日(火) ホームヘルプ例会

10月30日(火) 日本社会事業大学4年生 研修来所

10月31日(水) 筑紫哲也NEWS 23・放映23時

「団地の魅力と孤独死」

11月2日(金) ふれあい会食会

11月7日(水) 神戸市社協・神戸市民児協 講演

「19年度地域見守り活動」講師・中沢卓実氏

11月9日(金) 厚労省の社会援護局で現状報告と事例報告

報告者・中沢卓実氏

「これからの地域福祉の在り方に関する勉強会」において

11月12日(木) 本の泉社社長・比留川洋氏来所

中沢卓実氏と単行本発行について打ち合わせのため

11月13日(金) 団地社協 理事会

※ 毎週水曜日午前10時〜正午(福祉よろず対面相談)

☆各委員会の報告(詳細は11月10号「ときわだいら」に)

10月18日 いきいきサロン世話人会議

11/1からサロン2階の団体利用料ほか閉店時間を5時に変更するなどの運営規則を話し合い。

10月20日 いきいき大学

「テレビの裏話&歯にやさいいメニュー」

講師・ジャーナリスト菅原修氏 和やかな対話式授業に。

10月24日 ふれあいサロン

快よい秋の日に参加者も多く季節外れの「蝶々」の作成

に楽しい2時間が過ぎました。

10月30日(火) ホームヘルプ例会

今回は、さくら通りの在宅介護支援センター「カムアロ

ス」に施設見学。お遊戯の見学・施設の説明を。

11月2日 ふれあい会食会

食事の講座室には白いテーブルセンターに赤い花と豪華な雰囲気でお食事をいただいた後、児童たちによる歌と踊りに参加者の表情がほころびました。

### ☆中沢理事の講演・事例報告

11月16日(金) 日本女子大学(授業の一環)

11月24日(土) 私学会館(孤独死を考えるシンポジウム)

12月11日(火) 厚生労働省

「高齢者が一人でも安心して暮らせるコミュニティづくり推進会議」

12月17日(月) 千葉県社協シンポジウム

12月21日(金) 淑徳大学(授業の一環)

2月1日(金) 東京23区研修所

2月2日(土) 名古屋市中区ボジウム

2月16日(土) 北九州市保健福祉局

3月14日(金) 君津市公民館(午前講演・午後分科会)

4月19日(土) 愛知県安城市 講演

### ☆歳末ふれあい広場(もちつき大会) 共催

12月2日(日) に中央商店会の「しあわせ広場」で

午前10時から開催。おいしいトン汁・おしるこの販売

もちつき・フリーマーケットなど。皆様に参加ください。

### ☆「孤独死ゼロ作戦」を考えるフォーラム2007

12月10日(月) 午後2時から常盤平市民ホールで「フ

ォーラム2007」を開催します。第1部・民生児童委員の交代、

第2部・基調報告、第3部・シンポジウム。終了後に反省

会と望年会を開催。

### ☆民生児童委員 新任・退任(次期役職)

新任の役職として新会長に野元敏子氏・副会長に高山芳子

氏、ほか役職・新任退任は12月10日のフォーラムで紹介。

### ☆冊子「講和集」の発行

11月16日(金) に「講和集」を発行しました。孤独死ゼ

ロ作戦(4つの課題)、孤独死対策の関連図、ほか滋賀県・

松戸・新宿区・江戸専・船橋での講演、見守り活動のポイン

トなどを載せたもの。今回の発行は市の助成の対象外で1

部150円にて団地社協で取り扱います。

### ☆「孤独死ゼロ作戦」5年目の総括のプレス発表

11月20日(火) 松戸記者クラブにおいて「孤独死ゼロ作

戦」5年目の総括を発表しました。これ迄の経験と教訓を

そして成果をまとめ、いきいきサロンの紹介、今後の活動を。

☆単行本を世に出す

命の尊さを大切にする活動としてその詳細を単行本にし、

来年2月に発行。中沢卓実著・結城康博監修。お問い合わせ

せは団地社協または「本の泉社」電話03・500・844まで。

### ※次回の理事会と総括委員会

12月14日(金) 午後2時より支所コミュニティ室で開催

思いやり 福祉の心で まちづくり

平成18年 松戸市内年齢階層別孤独死人数状況

(警察別)

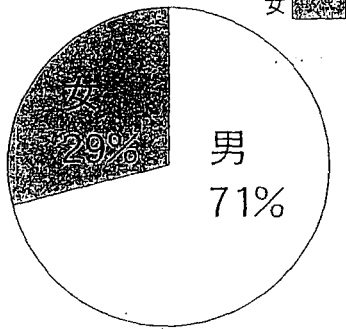
平成18.1.1~12.31(2006年)

年齢階層	男性		女性		計		合計
	松戸署	松戸東署	松戸署	松戸東署	松戸署	松戸東署	
50~54歳	1	1	0	0	1	1	2
55~59歳	0	7	0	0	0	7	7
60~64歳	5	2	1	0	6	2	8
65~69歳	7	7	1	1	8	8	16
70~74歳	3	6	2	1	5	7	12
75~79歳	3	5	1	2	4	7	11
80~84歳	1	2	4	5	5	7	12
85~89歳	1	0	1	1	2	1	3
90~94歳	0	0	1	0	1	0	1
95歳以上	0	0	0	0	0	0	0
合計	21	30	11	10	32	40	72
全体数	194	106	114	60	308	166	474

年	男性		女性		計		合計
	松戸署	松戸東署	松戸署	松戸東署	松戸署	松戸東署	
平成15年	46	13	16	15	62	28	90
平成16年	43	25	17	10	60	35	95
平成17年	50	17	21	14	71	31	102
平成18年	21	30	11	10	32	40	72

中年孤独死  
大幅に減少へ

男女別



マスコミ報道はもとより厚労省が今年度から孤独死について「孤立死防止推進事業」を全国的に推進しています。この「孤独死対策」の普遍化により、松戸市がこのほど公表したデータによると、「初めてその数が減少」していることが明らかになりました。松戸市と常盤平岡地地区社協が5月18日、プレス発表してそれを公表しました。

**孤独死の「ゼロ作戦」**  
松戸市内で取り組んでいる「孤独死ゼロ作戦」が全国的に注目されています。松戸市健康福祉本部の要請を受け、松戸警察、同東警察の両署による平成18年「市内の孤独死人数」がこのほど公表されました。  
**初の減少傾向**  
このデータは平成15年から毎年公表されているもので、これによると、過去3回連続して孤独死が漸増していましたが、平成18年には初めて孤独死の数が30%も減少しました。特に50歳から64歳までのいわゆる「中年層」の孤独死が大幅に減少したのが特徴です。まだ働き盛りの中年孤独死の減少は「いい傾向」です。

市内の孤独死の実態  
昨年より30%減少

その減少の要因として考えられるのは、新聞、テレビ、ラジオ、雑誌等のメディアの報道により、孤独死対策が報じられ、厚労省も今年度からこの「孤立死防止推進事業」を全国的に展開。その結果、孤独死の対策が一般的に知れ渡り、中年層の「自己防衛策」が普及したのが要因とみられています。  
もし、中年層の「自己防衛策」が功を奏したことであるなら、全国的にも同じことがいえることとなります。

**データは全国初**  
松戸市ではこの課題を諸計画の中に盛り込み、50歳からそのデータを集計し、公表。これは全国で初めてのケースとして注目されています。

鈴木貞夫健康福祉部長の話、「孤独死の課題が全国的に広がり、いまでは中高齢者対象の福祉対策に欠かせない課題となっています。本市においては両警察署のご協力により、毎年、孤独死のデータを公表していますが、平成18年に至り、その数が大幅に減少したことはよろこばしい限りです。」

孤独死が年々増加していると思いきや、平成18年は、その前の「102」より約30%も孤独死が減少して注目されました。松戸社協の会報『まつど社協だより』もこれを報道しました。



## 中沢理事の「講演」「事例報告」の開催日程

下記は平成19年度の9月からの「講演」または「事例報告」です。

(平成19年1月31日現在)

1. 9月22日(土) 江戸川大学総合福祉専門学校(公開講座兼ね)
2. 10月17日(水) 船橋市中央公民館
3. 10月21日(日) 白井市役所
4. 11月7日(水) 神戸文化ホール
5. 11月9日(金) 厚生労働省「これからの地域福祉のあり方に関する研究会」  
参考人発言(中沢卓実)
6. 11月16日(金) 日本女子大学(授業の一環)
7. 12月24日(土) 私学会館(孤独死を考えるシンポジウム)
8. 12月11日(火) 厚生労働省  
「高齢者等が一人でも安心して暮らせるコミュニティづくり推進会議」
9. 12月17日(月)千葉県社会福祉協議会によるシンポジウム  
(パネリスト中沢卓実)
10. 12月21日(金) 淑徳大学(授業の一環)
11. 2月1日(金) 東京23区研修所
12. 2月2日(土) 名古屋シンポジウム
13. 2月16日(土) 北九州市保健福祉局(14:00~)
14. 3月14日(金) 君津市公民館(午前講演、午後分科会)
15. 4月19日(土) 愛知県安城市(講演会)

# 孤独死ゼロ作戦

—— 常盤平団地から学ぶ ——

中沢卓実 著  
結城康博 監修

高齢化が急速に進むなか、高齢者はもとより中高年にも「孤独死」が発見され、大きな社会問題となってきています。こうしたなかで、常盤平団地の「孤独死ゼロ作戦」は、命の尊さを大切にする活動として全国的に知られる先進的な取り組みとなっております。その詳細を単行本として世に出す意義は大きいと考えます。

## Contents

はじめに

第一章 孤独死ゼロ作戦  
—— 四つの課題

第二章 孤独死対策における  
関連図と課題

第三章 孤独死対策の実践報告

第四章 どう死ぬか、それは  
どう生きるか

第五章 常盤平団地から学ぶもの

最終章 いのちを見つめて  
—— 詩の朗読

あとがき

### ●著者紹介

中沢卓実 (なかざわ たくみ)  
常盤平団地自治会会長  
結城康博 (ゆうき やすひろ)  
淑徳大学准教授

判形●A5判  
予価●1300円+税

\*お問い合わせは「本の泉社」  
〒113-0033東京都文京区本郷2-25-6  
TEL03-5800-8494 FAX03-5800-5353  
URL: <http://www.honnoizumi.co.jp>

**08年2月発行予定！事前予約はFAXで**

予約 注文書	書店名・帳合・番線	年 月 日	注文部数 冊	発売 本の泉社	予価 一三〇〇円+税	住所 〒
						氏名
						電話番号

館市船松 043-224-8155 成田 0476-23-0866  
山川橋戸 047-334-4146 銚子 043-224-8155  
047-437-9311 木更津 0438-37-0171  
047-344-0117 柏 04-7164-0057  
問い合わせ:03-6910-2556 広告のご用命:043-225-6411

やき始の**小田原屋**  
千葉市中央区栄町本店  
☎043-222-2463

**千葉中央**

# 松戸の常盤平団地 対策取り組み5年

# 孤独死ゼロ作戦が結実

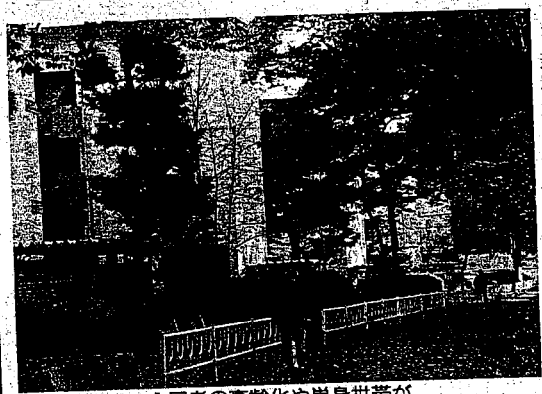


利用者たちがくつろいでいる「いきいきサロン」=いずれも松戸市で

誰にもとられず亡くなった男性入居者が、白骨死体で三年後に見つかったのを機に、松戸市の常盤平団地で始まった孤独死防止対策の取り組みが五年たった。団地自治会と団地地区社会福祉協議会が、さまざまな「孤独死ゼロ作戦」を展開。今年四月には、皆が集える施設「いきいきサロン」を開設。毎日三十人ほどが訪れるなど、ゼロ作戦は着実に成果を挙げている。

男性が白骨死体で見つかったのは二〇〇一年春、まだ五十九歳だった。家賃や光熱費が預金口座から引き落とされており、近所付き合いもなく誰も異変に気づけなかった。さきほど一年後には、五十七歳の男性が死後四月目で、孤独死が相次いだ。

## 地域参加促進へ「サロン」毎日、30人利用



入居者の高齢化や単身世帯が多くなったという常盤平団地

地域参加のきっかけになる場所」と、開設されたのが「いきいきサロン」。団地内の空き店舗を都市再生機構から借り、二階建てのうちの一階を喫茶店風にし、和室の二階は会合やサークル活動に開放している。

常盤平団地 大規模住宅団地の先駆けとして1960年から入居が始まった。5300戸余りが整備され、若い夫婦の家族が暮らし活気づいた。だが、子供たちが巣立つなどして、約2万人いた入居者も現在は9000人ほど。65歳以上の高齢者がゼロの時期もあったが、今は約30%。中高年の夫婦や独り暮らしの世帯が目立つようになった。

受けられ、弁当の持ち込みも自由。音楽会などの催しも開ける。利用者の世話をしているのが、自治会と地区社協役員の村沢明子さん(左)や白川久江さん(右)になり、ここで友達になった人もいる。心の癒え合いができ、精神的に癒やされる」と、サロンの開設を高く評価。

自治会長の中沢卓実さん(左)は「孤独死防止の取り組みの講演依頼が各地からあり、常盤平団地が全国から注目されている」と話す。十日午後二時からは常盤平市民センターで「孤独死ゼロ作戦」を考えるフォーラムが予定され、中沢さんが「孤独死の取り組み五年間の総括」という題で基調報告する。

# 「孤独死」の実態

東京都監察医務院  
監察医長 小島原將直

平成16年 単身者・自宅内での死亡 男性2101人  
女性 971人

